

壬生川地区 タウンミーティング開催報告

<p>【日 時】 令和6年1月11日（木） 19：00～20：30</p> <p>【場 所】 壬生川小学校</p> <p>【参加者】 地域：11人（壬生川地区連合自治会長など） 市：4人（市長、教育長、こども健康部長、壬生川公民館長）</p> <p>【テーマ】 子育てしやすい環境づくり</p>

概 要

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
(1) 学校規模適正化について	
<p>壬生川小学校の令和5年度入学児童数は28名で、1クラスになったことに地域は危機感を持っている。（これまでは1学年2クラス以上であった） 西条市は、小中学校の統廃合についてどのように考えているのか。</p>	<p>西条市全体では、小中学校の児童・生徒数は、平成元年から令和5年の35年間で45%減少している状況で、さらに今後約20年間で30%以上の減少が予測されている。 市はこれまで「子どもの声がある限り学校の統廃合はしない。」という方針であったが、教員や保護者を対象にアンケート調査を実施した結果、学校規模の適正化に対し「やむを得ない・積極的に再編を進めるべき」と回答する人が全体の約7割、適正な学級数については「1学年2～3クラスが適切」という回答が多かった。 子ども達の教育環境を第一に考えなくてはならないと思っている。</p>
<p>「学校規模適正化等に関する検討委員会」の役割と構成メンバー、委員会の進捗状況や今後のスケジュール（市長に答申するのであれば時期はいつ頃か。）を教えてください。</p>	<p>学校規模適正化に向けた検討を開始することを決定し、現在委員会を立ち上げ、適正化に向けた基本方針案について協議しているところである。 令和6年4月には審議会を立ち上げ、その後審議会から答申をいただき、総合教育会議などで協議・決定という流れになるだろう。 地域の皆さんに学校が置かれている現状を知っていただき、現状のまま子ども達を教育していくことがプラスになるかどうか等、問題提起しながら取り組んでいきたい。</p>
<p>統廃合に関して賛成・反対とどちらの意見が正しいのかわからないが、親としては学校を残してほしいという気持ちがある。</p>	<p>子ども達や教職員にとって、それぞれのメリット・デメリットなどいろいろな観点から検討をしつつ、最善の形で進めていかねばならない。</p>
<p>20年近く市内の児童クラブで働いているが、先生自身が複式学級に不慣れであるように感じる。また、校長先生が代わると授業のパターンも少し変わる。 児童数減に伴い先生の数も少なくなり、校長先生や教頭先生が授業をしているという現状で、急に複式学級になる学校があるとすれば先生も大変だと思う。 「複式学級」や「統廃合」などについて、流れをシステム化してもいいのではないか。</p>	<p>複式学級に慣れていない先生がいるというのは、そのとおりだと思う。 ベテランの先生は経験も豊富なので対応可能と言ってくれるが、デジタル関係は弱いという面もある。 また、「統廃合」という言葉が先行しているが、「学校規模の適正化」を考えていくところから始める。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p>今日の参加者の多くは子育て世代ではない。今後、統廃合の話の子育て世代の人にあるのだろうか。</p> <p>地域の方と保護者の方々に對し、どういう順番で説明するのがいいか難しいと思う。</p> <p>統廃合を推進するわけではないが、實際小学校に通う子ども達や保護者からの「仕方がない」「今の環境では困る」といった意思表示を受けて行動に移すのが「統廃合」だと思う。</p>	<p>自治会長も含めた地域のステークホルダーである皆さんには説明するが、やはりこれからの子ども達や子育て世代の皆さんの意見を聞いていくことの方が大事だと思うので、しっかり対応していきたい。</p>
<p>規模適正化についてあまり急がず、多くの賛同を得て進めてほしい。</p> <p>むしろ、令和6年度から始まるコミュニティ・スクール（以下、コミスク）のことを大事に考えてほしい。</p>	
<p>通う学校が変われば通学距離も変わるので、登下校時の安全面も心配だ。</p>	<p>文部科学省が示す適正な通学距離は、小学校4km、中学校6kmとあるが、通学については、子ども達の安全を守るために通学バスの導入を検討している。現在、具体的な案があるわけではないが、「子ども達にとって」ということを第一に考えていく。</p>
(2) 教育	
<p>障がいのある子どもも増えている。通級クラスのない多賀小学校の児童は、クラスのある壬生川小学校に通っている。</p> <p>学習内容によって場所の移動を余儀なくされる子どもはもちろん、送迎する親にとっても負担である。</p>	<p>自校で授業を受けることができればどんなにいいだろうと思う。毎年ではないものの、何年かごとに1学級くらいは増えているので、粘り強く県に要望していきたい。</p> <p>また、県立特別支援学校も、今治・新居浜市にはあるが、西条市にはないので、県教育委員会に對し、小学校から高校生まで通える支援学校の建設を要望している。</p>
<p>部活動を頑張りたいと意欲があるのに、人数が少ないために部として成立しない状況も生まれている。</p> <p>また、IQ130ある小学生が、能力が高いがゆえに他の子ども達とペースが合わず、我慢やしんどい思いをする場面があるようだ。そういった子どもの支援も考えていただきたい。</p>	<p>学校規模の適正化と同様に部活動の適正化も進めており、現在過渡期にある。</p> <p>地域への移行の前に学校間連携により合同で活動を行うこともある。</p> <p>教育雑誌で、高い能力を持った子ども達への指導の在り方について目にしたことはあるが、実際に聞いたのは初めてであり、今日はそれ以上のことはお伝えできないが、これから検討したいと思う。</p> <p>全て地域内の学校で対応できることが本人にとってもストレスがなく望ましいが、高いところを目指して、外の地域に出ていくことも選択肢の一つとして考えられるかもしれない。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
(3) コミュニティ・スクール	
<p>小学校では、今年度、支援サポーターを募集しながら、来年度の開始に向けて計画を進めている。</p> <p>地域内の横のつながりが大事であり、地域の方が積極的にコミスクに関わってくれたら、統廃合を進めるにあたっては逆行する部分が出てくるのではないかと懸念する。</p>	<p>令和3年度から試行的に始めている学校もあるが、令和6年度から市内全域で本格的にコミスクがスタートする。</p> <p>学校運営協議会を設置し、学校運営に地域の皆さんに関わっていただく。地域とともにある学校というのがコンセプトで、PTAや愛護班、各種ボランティア等関わり方も様々だと思うが、学校も地域の一員であるという考え方で進めていただきたい。</p> <p>壬生川小学校は、既に地域の支援を得ながら学校経営が進んでいると感じている。</p> <p>地域によって開始時期も異なるので、進み具合にばらつきも出ると思うが期待している。</p>
<p>中学校は小学校に比べて地域との関わりが少ない。中学校でもコミスクが始まるが、地域の方にどんな風に育てていただこうか、またボランティアとして手伝ってくれる方を募集したいと思っているが、募集方法を迷っている。</p> <p>保護者だけでなく、地域の方で中学校にも協力可能な方がいれば、紹介していただきたい。</p>	
<p>自分は地域ボランティアを20年ほどしているが、みんな多忙な生活を送っており後任者がいない。</p> <p>コミスクについても、平日の昼間に協力できる方々がどれだけいるのだろうかと思う。</p> <p>これまでは、職場を退職した人に協力をお願いしていたが、定年延長により地域活動に参加できるのは65歳以降になるのではないかと。</p> <p>また、協力できるとしても、ただ学校に来てくれたらいいわけではないと思うので、学校側にはボランティアを育てるための手引き等についても提案していただきたい。</p> <p>コミスクが悪いという意味ではなく、各地区にコミスクを育てる人が必要だと思う。</p> <p>人材という点では、コミスクだけに限らず、各種「支援員」になってくれる人がいるかどうかも心配である。</p>	<p>建設的な意見だと受け止める。</p> <p>支援員等の人材について、特別支援教育支援員やICT支援員など多くの支援員がいる中で、全ての支援員を配置することはできないが、どのような形で運営が適切であるかというところは追い求めていき吟味していく必要がある。</p>
(4) 子育て環境	
<p>人口減少時代において、子育てしやすい環境づくりのために、行政はどのような取り組みを行っているか。</p> <p>地域と行政が協力してできる取り組みを考えたい。</p>	<p>西条市では、出会いから結婚、出産、子育てまでの幅広い分野において、支援策として相談や検診など、約70事業を実施している。</p> <p>スマホから利用できる子育て応援サイト「ハピ♥すく」の運営や産前産後ヘルパー派遣事業も実施しているので、ぜひ活用していただきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p>学校の統廃合を考える前に、子育てしやすい環境を整えることを考えてほしい。</p> <p>児童数の減少は西条市に産婦人科が少ないことも原因のひとつだと思う。</p> <p>産婦人科にかからないと子どもを授からない場合もある。2人目を望む場合、子育てしながら遠くの病院に通うことは難しいので、近くに高度な不妊治療を実施している産婦人科があればいいと思う。</p>	<p>地元の病院で出産というのが理想だと思う。不妊に関する対応も手厚く行っていく。</p> <p>医者の確保については、子育て支援だけではなく、地域医療という観点からも対応していきたい。今後は「医療関係者の移住」ということも考えて、来年度の予算に盛り込もうとしている。</p> <p>仮に、3人目が欲しい時に後押しできるようなことを行っていきたく、行政も様々な形で情報を発信していきたい。</p>
<p>「無償化」にも良い面と悪い面があると思う。大学進学までのお金の工面ができないからという理由で3人目をあきらめた人がいるかもしれない。</p> <p>大学の授業料無償化の政策案が通り、そのつもりで3人目を授かったとしても、18年後にそれが本当に適用されるのかもわからない。</p>	<p>西条市は早い段階で中学生までの医療費無償化を実施した。</p> <p>高校生までの医療費無償化については、各自治体の判断ではなく、全国一律（ナショナルミニマム）で実施してほしいと要望してきたが、県内他市の状況等を受けて、令和6年4月から西条市も導入する。</p>
<p>自分は「放課後子ども教室」を開催する際、参加者から材料費等として100円を集めている。</p> <p>「材料費は有償なのだから、家に持って帰らないといけない」と言っているが、無料であれば、作った段階で雑に扱い捨てて帰ることもある。</p> <p>子ども達のためのお金を大人が使ってしまうということも現実としてある。いろんな意味で無償化というのはきわどい部分があると思う。</p>	<p>子育てしやすい環境づくりとして、他市に負けない様々な事業を行っており、子育て支援は大切な施策だと考えているが、無償化が本当にいいのかどうかということには疑問が残る。</p>

<開催の様子>

